

(5)

解説・総合

昭和58年4月6日(水曜日)

# 潮流'83

## 進展する中ソ関係

三月上旬からモスクワで開かれていた中ソの次官級会談が終わった。今回の中ソ会談は、こころ、二年來顯著になつた中ソ接近という国際政治

変わってきていただけに、この夏以降に第三ラウンドが北京で開催されるだろう。中ソ双方には、両者に関連した国際情勢をめぐって依然として食い違いが残っているらしいこと、しかし、今回の交渉は双方にとってきわめて有益であったこと、などが

つづある。

ムイコ外相の

もとで十年以

上も中国問題

を担当してき

た中国専門家

の外務次官

M・S・カー

ピッツァを配

していたことも、

中ソ交渉に

臨む中ソ双方の本格的な取り

組みの姿勢を示唆していた。

今回の中ソ会談の中心につ

いては、双方が非公開の原則

を守っているの、必ずしも

係の冷却化に見られるよう

に、中国の対外姿勢が大きく

# 日常化した実務交流

## 日米の防衛に問題提起も



中嶋 嶺雄

年度比三倍近くに増えて八億に、中国側の対ソ認識が根本的に変化しはじめていること、(一九六九—七〇年当時の中ソ対立期に比して約二十倍の伸び)、学術交流、留学生交換、スポーツ交流などが日常化しはじめたこと、中ソ国境河川航行合同委員会などの

もはや昔日の感がある。つまり、今日の中国がもはやソ連を脅威と感しなくなっているという戦略的な認識の変化にこそ着目すべきであろう。

レーガン政権下のアメリカも、わが国も、ソ連の脅威をその防衛戦略の根幹にしているだけに、中ソ関係の将来は、この点でもきわめて重大な問題を提起することになるかもしれないのだ。

(東京外大教授)

伝えられている。たしかに今回の会談の様子はそれに近いかもしれない。しかし、注目すべきことは、いまや中ソ双方、とくに中国側がソ連との国家関係の改善を明白に欲し、必要としていることであり、このところ中ソ双方の実務的な交流は、協議がこのところいづれも円満に合意するようになってきていることである。反面では、中ソ関係の将来を展望するうえでやはり無視できない事実である。こつした事実の累積とともに、中ソ国境の軍事緊張も、多くの論調は、中ソ交渉の将来に依然として困難が多いと見なしているようであるが、長期的な展望に立てば、今日の中国がもはやソ連を脅威と感しなくなっているという戦略的な認識の変化にこそ着目すべきであろう。